

令和5年度ひろしま感性イノベーション協議会運営業務公募型プロポーザル 議事要旨

ひろしま感性イノベーション推進協議会企画運営委員会

令和5年度ひろしま感性イノベーション推進協議会運営業務公募型プロポーザルについて、次のとおり審査した。

1 会議の概要

開催日時	令和5年4月18日(火) 10:30~12:00
開催場所	広島県庁東館2階商工総務会議室及びWEB(ZOOM)
開催方法	WEB(ZOOM)
出席委員名	委員長 石原 茂和(広島国際大学 総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 教授) 委員 栗田 雄一(国立大学法人広島大学大学院 先進理工系科学研究科 教授) 委員 西川 一男(マツダ(株) 技術研究所 革新研究創成部門 統括研究長) 委員 藤村 真琴(経済産業省 中国経済産業局 産業部流通・サービス産業課 課長) 委員 安部 重毅(広島県立総合技術研究所 西部工業技術センター 生産技術アカデミー 製品設計研究部 部長)
応募事業者	公益財団法人中国地域創造研究センター
議題	令和5年度ひろしま感性イノベーション推進協議会運営業務公募型プロポーザルの審査
担当部署	広島県商工労働局イノベーション推進チーム新産業支援グループ

2 議事要旨

○ 審査基準及び結果等

本協議会は感性工学を活用したものづくりを活性化することにより、高付加価値な製品の創出の促進に取り組んでおり、別表の審査基準に基づいて審査を行った。

その審査結果は次表のとおりであり、最優秀提案者として公益財団法人中国地域創造研究センターを選定した。

審査基準	評価の視点	配点	応募者	評価
			最優秀提案者	
提案内容				
実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ○感性価値の定義は適切で、県内中小企業が理解できる内容か。 ○目指す姿と現状認識は適切で、解決に向けた実施方針は現実的か。 ○ターゲット（産業分野）は広島県の産業構造を踏まえて選定されているか。 ○協議会活動の活性化に資する内容になっているか。 ○創出された成果を他社に展開させる仕組みとなっているか。 	100	70	<ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット選定については、県内産業構造を踏まえた適切な設定となっている。 ・感性価値の定義が適切になされており、協議会活動の活性化に資する方針が提案されている。 ・他社への展開手法、成功ポイントをまとめるだけで普及に繋がるか不明。 ・これまでの課題を解決する施策が明らかになっていない。
普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ○企業が感性工学等を活用したものづくりに興味や関心を持ち、新規会員企業の増加が見込める内容になっているか。 	60	39	<ul style="list-style-type: none"> ・感性実装カフェ、感性実装クラスルームなど、多くの企業の参加が認められる。 ・興味関心のある層へのアプローチ、具体的にどう PR するかが不明。 ・あらたな会員企業を発掘するための施策について物足りなさを感じる。
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ○企業が感性工学等を活用したものづくりに自社で取り組むために、必要な知識を習得し、実践する意欲を高められる提案となっているか。 	60	42	<ul style="list-style-type: none"> ・感性要素の抽出方法について、実際にやってみるワークだとより効果的。
企業内展開支援	<ul style="list-style-type: none"> ○十数件の事業化・着手が実現できるスケジュールや体制となっているか。 ○プロジェクトチームによる集中支援により、成果創出が期待できる内容になっているか。 	100	70	<ul style="list-style-type: none"> ・体制は十分である。 ・企業支援の申請書提出を必須とした場合の開始時期の遅れが懸念される。
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関での連携策の協議・検討が十分に進む内容となっているか。 	40	28	<ul style="list-style-type: none"> ・機関はそろっている。
登録専門家の領域整理	<ul style="list-style-type: none"> ○企業支援に展開できる調査結果が見込める内容となっているか。 	20	14	<ul style="list-style-type: none"> ・他機関の専門家との連携により効果アップが見込まれる。
「ひろしま感性モニター制度」の改正案の提案の提案	<ul style="list-style-type: none"> ○提案までのプロセスと手段は適切であるか。 ○感性工学等を活用したものづくりに有益な提案が見込めるか。 	20	13	<ul style="list-style-type: none"> ・内容が確実に実施されれば有益と認められる。
実施能力				
実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ○プロデューサー等の専門家が関与し、知見が有効に活用できるか。 ○円滑に業務が遂行できる体制となっているか。 	60	42	<ul style="list-style-type: none"> ・実績があるため、円滑に遂行できる。 ・専門家間の役割分担が懸念。
実績・強み	<ul style="list-style-type: none"> ○感性工学に関連する独自のネットワークを有しているか。その他、提案者独自の優位性・特長があるか。 	20	17	<ul style="list-style-type: none"> ・独自のネットワークを有している。 ・これまで9年の事業実績が蓄積はされている。 ・さらなる拡大の工夫が欲しい。

実施スケジュール	○実施スケジュールは計画的で実現可能なものか。	20	15	・スケジュールどおりであれば計画は実施可能。
合 計 点 数		500	350	

※本結果は、5名の委員の合計点によるものである。